

編集室

＊ 電子情報通信学会誌の中身は、これまで日本語のみだった。ただ、会誌目次と英文論文誌目次だけは例外である。英文論文誌目次は英語で当然である。会誌の英語目次は、どのような記事があるかだけでも日本語ができなくても分かるようにするためのもので、海外の機関でチェックしているところもあるようである。重要な記事の場合は、翻訳して研究者が読むこともあるらしいが、まれなことであろう。

＊ 現在、電子情報通信学会の会員数は、正員・学生員約 31,300 名、海外会員約 2,120 名である。正員・学生員の大部分は日本在住である。海外会員には海外国籍でかつ海外在住の人がなれる。会費は正員・学生員より安い。

＊ 正員・学生員には会誌が送付される。国内在住だけでなく海外在住の正員・学生員にも送付される。海外在住の正員・学生員は、海外に赴任あるいは留学した日本人が、日本留学から帰国した日本語ができる外国人がほとんどである。海外会員には会誌は送付されない。日本語ができない海外在住の外国人は、会誌をもらっても読めないの、会費が安い海外会員として入会する。

＊ 問題は、日本在住の外国人会員である。日本在住の外国人会員の中には日本語ができる人もいるが、日本語ができない人の方がずっと多い。日本語ができない外国人会員は、送られてきた会誌を捨てるしかない。

＊ かつては、日本に留学したら日本語を勉強するのが普

通であった。しかし、最近は英語のみの大学院もある。また、クラスに一人でも日本語ができない学生がいたら授業を英語にしなければならないと決めている大学院も急速に増えている。更に、競争的研究資金が増え、それで雇われた外国人研究者も多数いる。したがって、日本語ができない日本在住の外国人会員はどんどん増加している。

＊ このような状況から、会誌の中に少しでも英語のページを創設することになり、今月号から始まった。本ページの次の 2 ページがそれである。ちょうど本年度の本会の事業計画に「グローバル化」が掲げられており、そのための作業を行う国際企画タスクフォースが発足した。当面、英語記事の内容の検討はタスクフォースで行い、主査の高橋謙三先生に編集をして頂くことになった。英語記事の欄名は IEICE Global Plaza で、記事内容は、学術トピックス、論文募集、留学生向け求人情報、留学生向け資格試験情報、ニュースなどである。

＊ 国際企画タスクフォースでは、メールマガジンも出す予定であり、情報としてはそちらの方が速い。しかし、メールマガジンの存在を知らせ、それに加入してもらうためにも会誌の英語記事は重要である。

＊ 今月号の英語記事は 2 ページであるが、4 ページ、6 ページとだんだん増え、いずれは英文会誌の創刊など真のグローバル化につながることを願っている。

(編集理事 田中良明)